



「平成29年度 新任保育士・職員研修会」報告書



【期 日】 平成29年6月9日（金）

【会 場】 マリトピア 3階 瑞兆

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 121名

【内 容】

研修1 10:00～10:20

「基調報告」 指山 健次郎 氏（佐賀県保育会 会長）

研修2 10:30～12:00 13:00～16:00

「心の育ちから見た子どもの理解－“安心感”と自立－」

吉村 春生 氏（西九州大学非常勤講師 臨床心理士）



研修1 「基調報告」 講師：指山健次郎 氏（佐賀県保育会 会長）

1. 佐賀県保育会とは
2. 保育を取り巻く状況
3. 新任保育士の方々へ
4. 保育所は命を育み、学ぶ意欲を育てます



現在の佐賀県での保育所利用者の割合の説明と待機児童について報告。保育士に大切な5つのことを学び、DVDを通して子ども一人一人のために保育はどうあるべきか、感じ取る内容であった。

研修2 「心の育ちから見た子どもの理解—“安心感”と自立—」

講師：吉村 春生 氏（西九州大学非常勤講師 臨床心理士）



◎心のメカニズムを知る

- ・心を構成する3つの要素（1思考2行動3感情）があり、それを上手く機能させることが大事。中でも、感情は人への影響力が一番大きいものである。
- ・感情には負の感情（不安、怒り、悲しみ、つらさ）があり、人はそれを無意識の世界へ抑圧する。そして、抑圧した負の感情をためておける容量にも個人差がある。
- ・乳幼児期は負の感情の抑圧が起こりやすい時期である。
→ためこんだ負の感情の容量がいっぱいになると、心を構成する3つの要素も上手く機能できず、心がフリーズ（固まる）してしまう。
フリーズしてしまうと頑固になり、言うことも聞けなくなり、我を通そうとする。
では、どうやってフリーズしてしまった子の心を溶かしていくのか…

↓

その子が夢中になれる遊び・物を見つけてやる。
心のクリーンアップをしてやる。

*人の心のクリーンアップ方法

- ・泣く…すっきりする。
- ・遊ぶ…夢中になって遊ぶ、自分でイメージを楽しみながら遊ぶ。

- ・人が今までに夢中になっていたことを楽しめなくなった→うつ病の傾向
- ・子どもが遊ばなくなった→危険なサイン
- ・嘘をつく子ども、物を盗る・隠す子ども→寂しさを抱えている。

↓

- 自分にかまって欲しい、無くなった物は自分であり探して欲しい。
- ・人に迷惑をかける嘘はダメと教えなければならないが、作り話をしてくる子どもの話は否定しないで聞く。作り話をする事でイメージを楽しみ、自分で心のクリーンアップをしているから。



◎安心感と自立

- ・人生を飛行機にたとえた時、飛び立ってから上手く安定して飛行するために必要なもの→安心感
- ・人は不安に感じると、それを安心に変えたいと思う。甘えられる環境があれば、不安は解消され安心感がたまる。人生を飛行する上で多少のふらつき（ガス欠）があっても、不安を安心に変える環境、力があれば再びエネルギーを補充し自立して飛ぶことができる。
- ・人はガス欠になってくると、サインが表れる。
→落ち込む、涙ぐむ、気分が安定しない。
これが進むと、ストレス反応が表れる。
→不安、不機嫌、イライラ、無気力、身体症状（頭痛、腹痛、チックなど）
- ・小さい子のガス欠サイン→排泄面（お腹をこわす、おもらし、おねしょ）
- ・引きこもる→お母さんのお腹に戻る行為（カーテンの中、机の下）



○サイン見られたら…甘えられる場所、夢中になれるものを用意する。



不安が安心に変わると全てが正常に動くようになる。

- ・3歳前後 → 甘えを機能させる大事な時期である。
家族や保育士に甘えることができる環境が必要である。



人間は人との関わりの中で幸せになれる

◎発達障害について

- ・ADHD（注意欠陥多動症）
 - ・ASD（自閉スペクトラム症）
- …それぞれの特性を知り、関わる。

発達障害についてすべての人が確かな知識と理解を得る必要がある。



◎学習・しつけ理論

- ・学習には適切な行動モデルを提示する。
- ・目標を細分化し、できたところを褒めることにより「やる気」につながる。

効果及び評価

心の育ちについて、例文を用いてとても分かりやすく講義をしていただいた。
園でちょっと困った子どもの対応をする時には心を構成する3つの要素を考えながら子どもの気持ちに寄り添えば、解決の糸口を上手く見つけられると思う。
子どもや保護者の不安を安心感へと変えられる保育園や保育士でありたいと思い、そのためにも保育士自身が心の余裕と安心感を持って過ごしていく必要性を改めて感じた。

（文責：めぐみ保育園 水谷 佳名恵）